

解せぬ「新国立」算用

都民「価値見合うか」「良い施設望むけど…」

総工費2520億円

「高いよね」「何とも…」。二十四日明らかになった二千五百二十億円という新国立競技場の総工費に、都民からため息や怒りの声が上がった。二〇二〇年東京五輪・パラリンピック大会の主会場とはいえ、近年開催された五輪主会場の総工費で千億円を超えた例はなく、「良い施設を造ってほしい」と願いつつも、「金額に見合う価値があるのか」と疑問を口にしている人が目立った。(〇面参照)

取り壊された国立競技場横の都道。この日の夜も暗い中を多くの人がジョギングしていた。

「二千五百億円という金額に見合う価値を生み出せるのかは疑問。(総工費を)つり上げる」とされる「アーチもいらぬ」。トレーニングウェアを着て、仲間二

人と走っていた東京都八王子市の男性会社員(三〇)は首をかきつけた。都が負担を求められている五百億円にも「開催地だから出せと言っの乱暴」と語った。職場からの帰宅途中という品川区のパート従業員本間かえでさん(三〇)は「想像できないうすい額」と驚きつつも

「世界中から選手が集まる。半端でない、完璧な競技場ができるのを楽しみにしている」と期待を示した。都庁を見上げる新宿区の新宿中央公園。同区の自営業、鶴田洋一さん(三〇)は愛犬を散歩させていた。「良い施設を造ってほしいが、高すぎる。大まかな予算を

立て、その中でできるデザインを選ぶべきだった」と指摘した。そして「都民だけさらに五百億円を負担するのなら、新国立競技場で発生する収益を還元してほしい」と求めた。

公園で友人を待っていた小金井市の会社員、宮内美保さん(三三)は「デザインが良いと思えない。以前の競技場を改築すれば良かったのではないかと。五輪後に屋根を付ける費用がさらに必要になると思うと、『何でだろう』と思ってしまう」と憤った。

新国立競技場の建設計画をめぐっては、代替案が出ていた。デザインが決まった当初から「巨大すぎる」と指摘した建築家の横文彦氏のほか、東京都内のスポーツ関連企業も提案していた。ともに現行計画より千億円以上節約でき、二〇一九年のラグビーワールドカップ大会にも十分間に合うと主張している。企業案には、五輪後に野球場に改修してプロ野球チームを誘致する収益計画が盛り込まれ、自民党内でも支持する声があった。

英国在住の建築家ザハ・ハイド氏によるデザインは、屋根を支える巨大なアーチ構造が特徴。二つの代替案に共通するのは、コストと工期を増大させているハイド氏のデザインを捨て、合理的な発想で計画を練り直すことだ。

このスポーツ関連企業は社名を伏せる条件で本紙の取材に応じた。同社の案では、五輪時は八万席の観客席の一部を仮設に

1000億円節約 代替案も

過去の五輪主会場の総工費

※当時のレートで計算

1996年 アトランタ(米国)	〔総工費〕 約250億円	〔収容人員〕 8万3000人
2000年 シドニー(オーストラリア)	約510億円	11万人
04年 アテネ(ギリシャ)	約360億円 ※既存の施設を改修	7万5000人
08年 北京(中国)	約510億円	9万1000人
12年 ロンドン(英国)	約580億円	8万人

都内の企業など提案

し、閉幕後は五万席に縮小すること、競技場本体の建設費を六百億円に抑えている。

野球場への改修には別に三百

業化し経済成長の核になること。採算性実現のため、新国立競技場の規模縮小とチーム誘致は絶対条件」と話す。

ハイド氏のデザインのアーチ構造を問題視していた横氏らのグループも今月五日、この構造を見直した代替案を公表し、コストが一千億円削減でき、工期も短縮できると説明。「今がラストチャンスだ」と訴えている。

五十億円が必要だが、プロ野球チームの本拠地として年間五十億円で貸し出せば、二十数年で全額を回収できる。

過去の五輪の主会場も、閉幕後にプロスポーツを誘致したケースがある。アトランタ五輪(一九九六年)では、規模を約四割縮小して野球場に改修し、大リーグのアトランタ・ブレーブスを誘致した。ロンドン五輪(二〇一二年)でも約三割小さく

ウエストハムの本拠地になる。同社案を評価していた複数の自民党関係者によると、下村博文文科相も今春、この提案の説明を受け「もっと早く持ってきてくれていれば」と漏らしたという。

同社は今年三月以降、文部科学省や官邸関係者らと次々に面会し、提案を続けていた。同社幹部は「われわれの願いは、日本のスポーツが欧米のように産

成時期に気をもんだ。

足立区から買い物物に来た男子高校生(一七)は「五輪後の利用が見込めないなら、もっと安上がりでもいい」と話しつつ、「五輪に間に合わせることが大事」と完成時期に気をもんだ。

成時期に気をもんだ。

(森本智之)